

# 米同時多発テロ20年 癒えぬ傷と向き合う元消防士

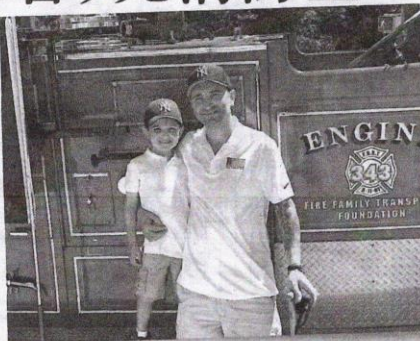
「1 人では苦しみにあがらない。私に前を向かせてくれたのは家族だった」

米国同時多発テロ(9-11)から今年で20年。多くの被害者や遺族が「思い出さたくない」と取材を断る中、ニューヨークの元消防士のロブ・セラ(40)は「新型コロナなどで困難に直面する人たちの助けになるのなら」と取材に応じてくれた。

前日に消防学校を卒業したばかりだった。当時21歳だったセラの初仕事がグラウンドゼロになった。ハイジャックされた民間機の衝突で崩壊したニューヨークの世界貿易センター(WTC)だ。

「救助活動は手遅れだった。有害物質が充満し、私も鼻血が止まらず、最後は意識を失った。残酷な現場だった」

9-11にニューヨークで命を落とした約3000人のうち343人が消防士だった。生還



した消防士の多くも心や体に障害を負った。被害者支援団体によると、9-11に関連して発症したがんなどで死亡した消防士は200人を超えた。9-11関連の医療支援をするWTC健康プログラムには一般人も含め10万人以上が登録。心的外傷後ストレス障害(PTSD)に苦しむ人はニューヨークだけで42万人以上と推測される。

「現場には石綿など多くの有害物質が存在していたことがあとでわかった。それが粉じんや黒煙となって目や鼻、皮膚から体に入ってきた」とセラ。肺活量が79%まで落ち、鼻や鼻孔にボリープが見つかった。今では末梢神経障害で杖や車椅子なしでは動けない。「治療のたびにフラッシュバックが起きる。肉体的な傷と精神的な傷は連動している。数日前にも元消防士が9-11関連のがんで死んだ。次は自分かと思う怖い」

同じ苦しみを知る元消防士の仲間以外には自分を出せずにいた。「いまだに話すことは不快だ」というが、それでも話をしようと思うようになったのは、わずか数年前のことだ。

9-11で父親を亡くした妻との間に3人の子供がいる。一番上の子は11歳だ。「おじいちゃんはずいぶんお父さんはどうして治療がずっと必要なの」。成長するにつれ、聞かれることが多くなった。「子どもには正直でいたい」。そう夫婦で確認し、一緒に子どもたちの疑問に答えるようになった。

体の自由がきかず、他の父親のように一緒に遊べないことには理由がある。33歳で消防士を辞めなければいけなかったことにも理由がある。「いいお父さんでいたい」。子

どもたちに話すことで過去の呪縛から解放され、将来を見つめるきっかけとなった。苦しみを分かち合った妻の存在も大きかった。

「自分がかわいそうだと思っけても、子どもたちのお手本にはなれない。苦しみに浸るほうが、苦しみを乗り越えて前を向くよりも簡単だと思っていた。自分を変えられるのは未来だけだと、ようやく気づいた」

グラウンドゼロにはいま、全米一の高さを誇る新たなWTCの高層ビル群が立つ。その足元に「9/11メモリアル・ミュージアム」が建設され、犠牲者の慰霊や被害者支援をしながら当時の悲劇を伝える。19年は600万人以上が訪れたが、20年はコロナの影響で約半年間休館した。「ここは9-11後の希望とレジリエンスを語り継ぐ場。コロナ禍でも9-11当時と変わらぬ思いやりや共助をたくさんいただいている」と、広報担当のオリビア・エガーはいう。

ただ、今も精神的ストレスからグラウンドゼロに来られない被害者もいる。セラは何度か訪れたが、「博物館の展示はほとんどが地下にあり、息苦しさを感じる。犠牲者の写真や壊れた消防車の展示は見るに堪えない。それに当時のにおいがまだする」。実際に訪問してみると息苦しきさやにおいは感じられなかったが、これが心の傷の深さだと実感した。

「苦しみの形も向き合い方も人それぞれ。肉体的な傷と違って内面の傷は見えない。苦しみは一生消えないと思うし、共通の処方箋もない」とセラは話す。「でも1人で抱え込むと苦しみのわなにますますはまる。コロナの最大の問題は人と会えないこと。助けが必要で、それが共通の処方箋なのかもしれない」

セラは現在、元消防士らの医療費などを援助する民間団体を元同僚たちと立ち上げ、助け合いを通じて今後の人生を切り開こうとしている。



山本大輔(やまもと だいすけ)  
1972年生まれ。米国内で連日20万人前後のコロナ感染者が出る中で、ニューヨーク取材にマスクは不可欠。経済的打撃が深刻な当地でもレジリエンスがキーワードだった。

## 家族

目にとまった。気づく電話のダイヤルで、自宅の電話番号を聞いた。

器の向こうで妻が声をうっているような。「結婚する時の守れなくてごめん」。言葉があふれ出れから年に1、2回、ようになった。話す子どもの結婚や出産、まちの復興の様だった日常だ。「あの気というか風というか、空間に包み込まれる感じがする。電話で話す分、空気が入ってきて、生き実感がする」

電話は、佐々木格とかが病気で亡くなるのがれる場をつくらうと